
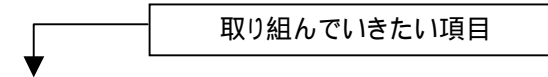


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ここでの生活は短い。ここを出れば病院か施設に行くしかない方々ばかりです。だからこそ、せめてここでの生活はその人らしく、「ゆっくり、のんびり、穏やかに」生活して頂きたい。その一念からこの事を私達の理念(方針)に掲げ、自己実現に向けて集団生活の中でも個性を確立し、その人らしく生きていける様、日々のケアに取り組ませて頂いております。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所にはこの理念は掲げられていますが、それ以上に、職員全員の心の中に、この理念が深く根付いています。言い方を変えれば、職員全員が同じ眼差しています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームでは毎月の請求書内にホームでの暮らしを撮影した広報誌を同封させて頂いております。その中に、毎回の様にこの理念を記載させて頂いております。この広報誌はご家族様だけでなく、近隣の関係各所や見学等にいらした方々にも配布し、ここでの暮らしぶりやここで生活する全ての人(入居者様や職員、ボランティアの方々、ご家族様の想い)を伝えさせて頂いております。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の挨拶は勿論ですが、隣家の方にはホームの畑のお世話をして頂いたり、取立てのお野菜をおすそ分けして頂いたり、また小さな赤ちゃんのいるお宅では、その赤ちゃんを連れて遊びに来て下さったり。とにかく「来るものは拒まず」的な開放的なホームとなっていると思います。		もっともっと沢山の方に来て頂ける様、交流活動をして行きたいと考えております。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事の中で、参加できる物には率先して参加させて頂いております。当然の事ですが、隣組にも入れて頂いておりますし、地元自治会で開催する清掃作業等にも参加させて頂いております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご家族様を対象に、認知症についての講義などは行った事があります。		世間では、「認知症」についてのご理解は未だ低く、まるっきり人事の様に思われている方や誤解されている方々が多々あります。実際は皆様が思っているのとはまるっきり違うんだ、と言う事。認知症と言う症状が現れても、その人なりの世界を持っている事、考えを持っている事、感情を持っている事、苦悩している事などなど・・・それらを、広報誌の中で訴えさせて頂いております。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員にこの評価票は記載してもらいました。記載してもらう事により、外部評価の意義を理解すると共に、自分達のケアを見直すきっかけとなっています。また、外部評価で受けた指導(実地指導等)については、全て職員間で話し合い、速やかに改善し、以降のケアに繋げております。		今後もこの評価に関しては、職員全員に行ってもらい、それを集計し、ホーム全体の評価とし、今後のケアは勿論、職員教育にも役立てて参ります。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	等ホームの推進会議は「家族会」的な役割も果たしています。毎回出席率もよく、会議の始めには必ず事故報告をしています。その後その時々に応じたホーム内の現状をご報告させて頂きたく共に、そこで出たご家族様からのご意見を真摯に受け止め、日々改善に努めております。		昨年度の会議では、ご家族様同士、普段は職員には言えない想いを語り合う、ピアカウンセリング的な物も行いました。また、様々な問題や悩みを抱えるご家族様に対し、ホームとして持っている情報は少ないので、グループホーム協議会・北部会の理事をお招きし、それらの問題(悩み)にお応えして頂きました。これらは、今後も継続して行きます。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議や事故報告は勿論、日々の生活の中でも対処に困る事や疑問に思う事などは全て話し、その都度アドバイスを頂いております。また、包括は勿論、福祉課には、毎月ご家族様に送付させて頂いている書類の全てをお渡しし、ホーム内の事をご報告させて頂いております。		推進会議に関しては、市町村担当職員の方のご参加は未だにありません。出席できない理由も事業所としては承知致しておりますが、無理の無い範囲でご出席頂ける様、今後もアプローチしていきたいと考えております。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	左記については実施致してはおりません。		権利擁護事業に関しては、以前関わっていた事はあります。今、後見人制度の問題を抱えていらっしゃるご家族様があります。これについて既に相談を受けましたが、私自身知識が無く、お力になれなかったことを反省し、今年度はこの制度について学ぼうと思ひ、書籍などを読み始めた段階です。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	TVなどで報道された時、緊急の職員会議を開催し、自分達のケアを振り返りました。その内容は、全てご家族様にも書面にてご報告させて頂きました。		自分達のホームでも身体的な虐待は勿論ですが、心理的な虐待も無い様、職員の心身の健康を図りながら、今後もケアに取り組んで行きます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ホームの方針は勿論、利用料や医療面についても、最初からご説明し、確認、了解を取らせて頂いております。</p>		<p>重要事項や規定が変更するたびに、その都度ご家族様には書面にてお伝えたり、推進会議の場にてご報告させて頂き、ご理解とご協力を頂ける様、努力致しております。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様から出た苦情、要望には速やかに対処し、書面でも回答させて頂いております。また、ご家族様のご理解が取れば、月末の請求書内にも同封し、この様なご意見があり、それに対してこの様に改善した、と言う事を、それぞれのご家族様にお伝えしております。</p>		<p>ご家族様からのご要望の中には、ホームとしては対処出来かねるものもありました。その為、市町村は勿論、県にもご相談させて頂き、アドバイスを頂戴したこともあります。そして重要事項の一部を改正させて頂きました。考え方、眼差しの相違の難しさや、家族支援の根本を考えさせられますが、できる限りの努力はしていきます。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末の請求書内に、広報誌を始め、その方が服用している服薬表、担当職員からの手紙、その他連絡事項、職員の研修報告書などなど、それ以外にも、ご家族様が希望されれば1ヶ月分のケース記録のコピー等、A4の封筒がパンパンになる位の書類等を入れ、毎月送付させて頂いております。これが当ホームの情報公開のあり方です。</p>		<p>これからも、様々な情報をどんどん発信して参りたいと考えております。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>上記13番同様</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者は職員の意見を聞いてくれると共に、アンケート調査を実施し努力してくれています。また、管理者と職員の関係では、日頃のコミュニケーションの中での意見交換を始め、職員会議の場においても協力し合い、トップダウン形式の組織にならない様、ボトムアップに努めています。</p>		<p>職員のやる気や志を折る事無く、職務に当たってもらいたいと思っています。様々な負担を強いる中、不平不満を言う職員はおりません。けれど本当の所はかなりきついのでは…それでも、思いやりを持って接してくれる職員の皆に、心から感謝しています。それだけに、これからも私自身、もっと頑張らなければと思います。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者様の状況に応じ、職員の勤務体制(勤務時間)を変更、調整し、その時々に応じた対処をさせて頂いております。また、ご家族様のご都合(事情)に配慮し、個人購入物品や受診等もさせて頂いております。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は殆どありません。離職に関しては、入居者様のダメージが最小限で抑えられる様、残った職員が全力で対処させて頂いております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力等に応じ、外部研修にも頻会に参加しておりますし、そこで学んだ事は、ホーム内の勉強会で他の職員にも報告しています。また、ホーム内の勉強会も2ヶ月に1回開催しております。</p>	<p>これからも継続して勉強会を開催し、様々な知識を養い、それをケアに活かしていきます。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の会合に参加。情報交換の場にさせて頂いております。また、各種研修の場においても、他事業所の方々と情報交換させて頂き、ホームの運営や日々のケアにその情報を役立たせて頂いております。</p>	<p>今後も積極的に参加させて頂く所存です。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は管理者の相談に乗ってくれたり、職員とのコミュニケーションを取る様、心掛けてくれます。また、管理者はできるだけ職員の負担を軽減できる様、希望休を優先し勤務表を作ったりしています。</p>	<p>職員の心理的負担から身体的負担の軽減に努めておりますが、実際はかなりの負担を強いている部分があります。けれど、どの職員も不平不満を言わず、互いを思いやり助けあったりしてくれます。それだけに、なんとかもっと負担を軽くしたいと思うのですが、なかなか……難しいですね……</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員が、必要に応じた研修に参加できる様、配慮してくれています。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には事前訪問を行い、情報収集に努めると共に、とにかくご本人様の話を聞き、ひたすら受容する事に努めております。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記同様</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事例によりけりです。ホームでの対応が難しいと思われる場合は、ご家族様の希望に沿える様な事業所と連絡を取り合い対応させて頂いております。また、当ホームで対応可能な場合は、その方が必要な物品等を事前に考えご用意させて頂いております。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居させれる前に、可能ならば見学に来て頂いております。そして、他の皆様には「見学の方がいらっしゃいました。」とご紹介させて頂き、一緒にお茶を飲んで頂いております。そして、ホームの雰囲気や暮らしぶり等を感じて頂ける様、配慮させて頂いております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	私達は「介護」ではなく「支援」だと考えております。その方の自己実現に向けて歩んで行く過程の中、生きていく力やたくましさ、寂しさ等をその都度目の当たりにし、人としてのあり方を学ばせて頂いております。職員の誰一人として「介護してやってる」と言う様な気持ちは持ち合わせておりません。共に歩んで行く。その気持ちで日々、共に過ごさせて頂いております。		これからも、この考え方は変わらないでしょう。共に歩む、共に感じる、共に悩む。入居者様の心を常に感じ、職員一人ひとりが心を痛めたり、また笑ったりしています。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	私達の職務には「家族支援」も含まれています。その事は職員一人ひとりがしっかりと理解しています。ご家族様のご意見等も十分に配慮しながら、日々のケアに努めさせて頂いております。またご家族様の金銭的負担や心理的負担、家庭状況も考慮しながら、日々のケアに当らせて頂いております。		とは言え、なかなか難しい面もあります。入居者様中心に考えると、ご家族様の想いに添えない部分もあったり、また要望にお応えできない事もあり、信頼を欠いてしまったり。家族支援の在り方そのものが見えなくなってしまう時があります。家族支援とは何か、改めて考える時期にきているのかも知れません。また、家族ノイローゼになっている部分もあり、心身共に病んで居る者もおります。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご面会に来て頂いたり、ホーム内での様子を毎月お知らせしたりしながら、情報の共有化を図っております。		ホームと言う場が、ご本人様とご家族様を繋ぐ中間的立場である事を常に心がけております。どの様な歴史があるにせよ、家族の絆が途切れる事無く、あるいは纏れた絆が再び結ばれる様、そんな優しいホームでありたいと思っております。その想いはこれからも消えないと思えます。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅からの継続で、ホーム入所後も趣味のお稽古に通っていやっしゃる方もおります。(送迎の支援をさせて頂いております)また、花見等の外出も、出来るだけご本人様にとって馴染みのある場所に行ける様、配慮させて頂いております。		入居者様全てが左記の様な配慮の元、暮らしている訳ではありません。ご自分の希望をなかなか口に出出来ない方もおります。今後は、そうゆう方のお気持ちにもできる限りお応えして行こうと思っております。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	他人同士が共に暮らすのだから、様々な葛藤等があります。けれど、例え時間は掛かっても、その人が自分の居場所を見つけ、自分らしく生きて行ける様、職員は常に配慮しながら、より良い人間関係が築いて行ける様、支援させて頂いております。		当ホームは「配慮するケア」と言っても過言ではないと思っております。私達職員の発する言葉や態度。それにより入居者様同士の関わりも決まってしまう。これからも、この配慮はその時々に応じ、試行錯誤しながら継続し、入居者様同士が大きな「和」になれる様、取り組んで参ります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当ホーム退所後、病院などに入った方の元へは時折訪問したり、ご家族様とも管理者は連絡を取っていたが、その方が亡くなってしまった後は、疎遠となり関係は終了してしまっています。		現在に至るまで、殆どの退所者の方が病院でお亡くなりになってます。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人様の希望等をリサーチし、できるだけご希望に沿える様に努力致しております。また、セラピーやレクリエーション等の参加の有無も強制はせず、ご本人様の意思を尊重しております。		出来るだけどのような場面においても、最終的選択権はご本人様である様、アプローチの方法や声掛け等、常に配慮させて頂いております。これからも、もっともっと自我の放出や自己表現が出来る様、支援して参りたいと思っております。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から情報を頂いたり、生活の中から読み取り、ライフスタイルが崩れない様、出来る限り支援させて頂いております。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当職員を中心とし、一人ひとりの1日の出来事を記録に残し、その家庭がわかる様、ファイルし考察をまとめております。また、どんなささいな事でも見逃さない様、観察重視に努めております。		左記で得た情報は、職員間の雑談の中でも繰り返し話され、記録物だけでなく、何気ない場面の中でも伝達しあい、情報の共有化がなされています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を導入し、3ヶ月毎に担当職員がアセスメントを取り、その時々でのご本人様の要望や解決すべき問題点をリサーチ。それを職員全員で考え、自己実現へ向けたケアの方向性を導き出させて頂いております。当然、この中にはご家族様のご意見も取り入れさせて頂いております。		左記以外でも、日々の生活の中で担当職員を始め、他の職員の意見を元に、細かなケアの方法を、その時々状況に応じ話し合い、展開致しております。また、その内容につきましては、常にご家族様にご報告させて頂いております。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記同様		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録(ケース記録)を書いたり、個別の連絡メモを活用し、情報の共有化に努めております。		一人一人の入居者様の全てを把握しているか?と問われれば、把握しきれていない部分もあります。文章表現の仕方、伝達の仕方によっては元の情報と、若干ずれてしまったりする部分もあり、詳細も含むほどの完璧な情報共有はなされていません。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームとして、できり限りのことはさせて頂いているつもりです。		過去から現在に至るまで、様々な事案やご要望にお応えして参りました。けれど、それは事業所としての機能を越え、私達職員の私生活に及ぶ程、過酷な物もあります。どこまでこのご要望にお応えするべきか... 応えられなければ直ぐに信頼を欠き、クレームとして上がる現状... 正直、物凄く悩んでいます。このあたりについて、ご指導頂ければ幸いです。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元ボランティアの方や、保育園、消防所、警察等、全て連携体制が整っており、絶大な支援を頂戴しております。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当ホームを退所する兆しが見えて来た時点で、今後の方向性を検討させて頂いております。この時、次に利用するであろうサービス事業所や病院のケアマネさんや相談員の方々と連携しあい、対処後の生活等に困らない様、支援させて頂いております。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括との連携は正直薄いです。今年度になり、初めて包括からのご紹介を頂き、入所された方がおります。これをきっかけに情報の共有をはかり、連携、協力しあえる様になりました。		これから先もより深い関係が築ける様、積極的にアプローチして参りたいと考えております。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	左記の様に支援させて頂いております。入所前からのかかりつけ医に受診していらっしゃる方もおりますし、当ホームと連携している病院に受診されている方もおります。当ホームで受診同行させて頂いている病院の先生や看護師、薬剤師の方々とは充分な連携が取れています。		ご家族様が受診同行して下さっている病院の先生方には、お会いしたことはありません。受診時の情報提供は、ご家族様を通じ行っております。現段階では、私達職員が直接先生にお会いし、見解をお伺いする様な場面に至っておりませんが、その様な次期が来たら直接お会いし、連携を深めて参りたいと考えております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症にも詳しい神経内科の医師と、必要に応じていつでも相談でき、治療していただける様、関係を保っております。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員に対して、勉強会等で医療に関しての事を教えて下さる方はおりますが、健康管理や医療活用等の直接的支援においては、看護職員との連携はありません。		医師以外で、常に入居者様の身体状況を把握し、健康管理や医療活用をさせて下さる看護職の方との関係を築きたいとは考えておりますが、現実的には難しいです。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者様が入院した場合は、積極的に情報の共有化に努めさせて頂いております。また、緊急時にも備え、普段は関係の無い病院にも毎月広報誌等を郵送させて頂き、ホームをご理解いただける様努めさせて頂いております。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームでは、ターミナルケアは行ってはおりません。しかし、これから先に起こり得ると考えられる、さまな状況変化(重度化)の想定は、その時々に応じご家族様にはお話しさせて頂いております。また、医師にもアドバイスを頂き、日々のケアに役立たせて頂いております。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	左記の様な事は行っておりません。		現段階では、当ホームではターミナルケアは行っておりませんし、そこまで重度化したケースもありません。上記47番、左記48番はこれから先に起こり得る事かもしれません。これは今後の課題かもしれません。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	左記の様な場合、情報提供は積極的に行わせて頂き、ご本人様の混乱を出来るだけ最小限で抑えられる様努めさせて頂いております。		今まで、退所者の殆どが病院へ入院しています。実際に別の施設に移り住んだ方は少数です。この時は、左記の様な支援をさせて頂きました。今後も別の施設等に移られる際は、この様な支援を行わせて頂きたいと思っております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>個々の誇りやプライバシーには充分配慮しながらケアに努めさせて頂いているつもりです。特に、私達が発する言葉掛けや態度には、細心の注意を払っております。また、記録当に関しても、イニシャルを使用するなどしております。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>必要に応じ、紙に書いてご覧になって頂いたり、選択枠を設けさせて頂いたり、静かな環境をセッティングさせて頂いたり、その時々状況に応じ環境を整え、自我の放出や自発性の拡大に取り組ませて頂いております。</p>	<p>基本的には「強制はしない」これを常に心掛けております。また、傍から見ればおかしな事も、ご本人様にとっては完結している事も踏まえ、それも自己表現とし、決して否定せず、自分らしさを表現して頂ける様、「認知症高齢者の為の環境支援指針」を元に、自己実現に向けた環境整備に努めております。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人を常に尊重し、ご本人様のペースに合わせ生活出来る様、支援させて頂いているつもりです。</p>	<p>職員体制の整わない日など、入居者様の意に添えないこともあります。本来、私達職員サイドの都合で入居者様の生活を変えてはいけないことは、重々承知致しておりますが、安全確保が図れない様な状況の時などは意に添えない事もあり、心苦しく感じる場面もあります。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きつけの美容院や理髪店のある方は、ご家族様のご協力の下、そこに通って頂いております。またそれ以外の方は、地元の床屋さんで、当ホーム開設以来、ずっとお世話になっている(出張床屋さん)に、月に1回カットに来て頂いております。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>何が食べたいか要望を聞き、メニューに取り入れさせて頂いております。また、義歯や歯の欠損により食事の提供に配慮を要する方もありますが、ソフト食などを導入し、できるだけ皆様と同じものが頂ける様、工夫させて頂いております。食事の準備や後片付けも入居者の皆様と一緒にしております。</p>	<p>食事の準備や後片付けなど、入居者様の中に役割の様な物が存在し、自発的に動いて下さいます。これからもその自発性を守ると同時に、自己実現に向けた支援を行って参りたいと思います。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、タバコは実施致しておりませんが、それ以外の嗜好に関しては、配慮させて頂いております。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人一人、トイレ誘導する時間や声掛けの仕方など、今までの観察の結果、その方に適した方法で支援させて頂いております。</p>		<p>より一層、一人一人の排泄パターンの把握に努めていきたいと考えております。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>基本的には、入浴日はこちらで決めさせて頂いておりますが、入浴方法は出来るだけご本人様の希望に沿える様、配慮させて頂いております。</p>		<p>本来ならば、毎日入浴(いつでも好きな時間に入れる)事が望ましいのはわかっておりますが、入浴に掛かる時間やそれに携わる職員数を考えると、それ以外の余暇活動の幅が狭まり、入居者様一人一人の要望に応えきれなかったり、外に出て行こうとする入居者様に同行できなかつたりと、安全確保が図れない現状があります。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>体調や気分に応じ、日課等も無理強いせず、休むことを促したりと、配慮させて頂いております。夕食時などは静かな音楽を掛け、1日の終わりを諭すと共に、就寝前には緑茶などは出さず、ホットミルクを摂取させて頂いております。また不安を訴える方には、傾聴を心がけ、時にはその方が落ち着くまでベットサイドにて手を握るなどの配慮をさせて頂いております。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>話しをしたり、色々な活動をしていく中で、その人なりの楽しみを常にリサーチし、歌好きな方には歌を、外出が好きな方には外出を、家事が好きな方には家事を。また、慰問や音楽療法、アニマルセラピー等も取り入れ、張りのある生活を送っていただける様支援させて頂いております。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つ事の大切さは充分理解致しております。しかし、保管能力等の問題から、お金を所持している方は限られております。その代わりに、買い物に行った際など、レジでホームのお財布を渡し、支払って頂いたりすることはあります。</p>		<p>入居者様を始め、ご家族様とのトラブルを回避する為に、当ホームでは原則として一部の特例を除き、個人的な金銭管理の介入は致しておりません。その考え(方針)は今後も継続しますが、左記の様に支払い場面等のシチュエーションを作り、アプローチして行きたいと考えております。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候の良い日には散歩や買い物、ドライブ、戸外での外気浴等を行っております。また、フラッと外へ出て行ってしまふ方には、職員が同行したり、ご本人様には気付かれない様、安全確保を図りながら、こっそりと後をつけて行ったりと、心理的抑制も行わない様にしております。</p>		<p>職員の人数によっては難しい日もあり、もっと外へ出掛けて行きたい…と思う事もあります。しかし、今年度は(余暇を楽しむ外出)を目指し、外出のあり方そのものを見直し、工夫改善をして行きたいと考えております。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>左記の様な支援は行っていません。</p>		<p>普段行けない様な場所に希望通りお連れするという事は、ホームとしては難しい現状にあります。けれど、お花見など季節を感じる風物詩等で、今後も対応して参りたいと考えております。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から電話等の希望があれば、支援させて頂いております。また、海外にいらっしゃるご家族様から電話があった場合などは、必ずお取次ぎさせて頂いております。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	飾りつけを工夫したりして、清潔で明るい空間作りの工夫を致しております。また、ご面会時などはお茶やお菓子をお出しし、自室やホールなど、お好みの場所でゆっくりと過ごして頂ける様、配慮させて頂いております。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、いつでも確認できる様にしております。それに加え、私達は心理的抑制もしない様、常日頃から充分注意を払い、ケアに当らせて頂いております。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には開放型で、施錠は致しておりません。しかし、最近になり、事務所内を物色する入居者様が現れましたので、事務所内に職員が居ない時のみ、事務所の入り口に施錠を致しております。これについては、既に全ご家族様に連絡し、ご了解を得ております。		夜間のみ、無断外出の危険性のある入居者様の居室の窓とホールの窓には、消防所の方にご指導頂き、防犯上や火災時等の観点から対応可能な施錠をアドバイスして頂き、それを設置させて頂いております。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に視野に入れておける様、スタッフを配置していると共に、プライバシーにも充分考慮しながら、様子観察に努めさせて頂いております。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全確保について、勉強会を実施。一人一人の身体状況等によって、注意すべき物品は異なることを視野にいれ、環境整備等を行わせて頂いております。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	行方不明や火災等に関しては訓練を行い、いざと言うとき迅速に対処できる様にしております。また、それ以外の事故等にも感じても、職員間の危機管理意識の高まりにより、より一層注意を払い日々のケアにあたる様になりました。		夜間の事故を未然に防ぐ為に、職員はノイローゼになるのでは？と思う位、神経を使いながら業務にあたっています。それでも、1人夜勤。どうしても死角ができてしまったり、一度に何人もの対応が出来ず、転倒させてしまったりと、100%事故を防ぐ事は不可能です。けれど、これから更細心の注意を払って参ります。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時に備えてのマニュアルは作成してあります。		他事業所の看護師の方に、ホーム内でできる応急処置の仕方や老人医療の講義をお願いしたこともあります。また、消防所に依頼し、緊急時の対応等についても教えて頂きました。しかし、現在ではその講義等を受けた職員は退職。現職員のうち、これらが出来来る職員は約半数。近日中に消防所に依頼し、救命法等の講義をお願いする予定です。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は行っております。		水害や震災当の訓練は行っておりません。今後の課題でもあり、早急に検討しなければ、と考えております。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族様には、その時々状況に応じご報告させて頂いております。また、今後起こり得る状態や、先行き当についても事前にご説明させて頂いております。そして、ご家族様の意向も伺いながら、ケアの方向性等を検討させて頂いております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃から細かな観察をすると共に、職員間での情報の共有と、連絡体制の徹底に努めています。何かあれば直ぐに管理者や主任に連絡し、状況に応じ受診。またご家族様へも連絡。夜間についても同様で、管理者が主任が夜間待機し、常に対応できる態勢を整えております。		私達のホームには看護職員がおりません。それだけに日頃から職員は危機感を持っています。その為、観察力にも優れていますし(何かあったら、直ぐに受診)やDrに報告・指示を仰ぐ、を繰り返しています。これからもこれは継続していきます。それと共に、これらに関する勉強会等を開催して行こうと考えております。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服薬している薬の薬表は全てファイルし、いつでも誰でも確認できる様にしております。また、薬が変更になった時など、その情報は常に共有し、身体的変化は勿論、行動にも変化が無いかな観察させて頂いております。また、ご家族様にもこの薬表は毎回郵送し、今どんな薬を飲んでいるかも含め、状況報告をさせて頂いております。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に関しては、できるだけ薬に頼らない様、毎朝ヤクルトを摂取して頂き、お茶の時間に飲まれるコーヒーにはミルクをいれたり、食材は野菜中心にしたりと、食の中での工夫に力を入れて頂いております。それでも、困難な方には医師に相談し、服薬等の指示を頂いております。また、便秘から来る周辺症状等も含め、日頃から観察を充分に行っております。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、入居者様一人一人に細かく支援させて頂いております。今では、入居者様全員が1日3回、しっかり口腔ケアをして下さるまでになりました。また、義歯の方は、夜間のみこちらで義歯をお預かりさせて頂き、ポリデントに漬け、翌朝お返し致しております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、昨年保健センターの栄養士の指導を受け、「現状のままで良い」との評価を頂いております。また、水分については、これも日々観察を行い、その方の摂取状況は勿論、その日の行動や気温などに応じ、水分補給に随時努めさせて頂いております。		この保健センターの栄養士によるご指導を、今年度も予定しております。これは毎年継続していくつもりであります。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	1年を通じ、外出から帰った際は必ず手洗いと、紅茶でのうがいを実施致しております。またそれ以外についても、マニュアルがあります。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に関しては、常に新鮮で安全な食材を使用し、賞味期限の厳守は勿論、けて作り置きはしない。また、台所は勿論、食器や調理器具の衛生面も徹底して行っております。職員の全員がプライベートの生活の中でも、これらのことを気にする者ばかりなので、徹底されております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは開放的で、草花も植えてあり、またメダカなども居て、親しみやすくしているつもりです。また、玄関は常に施錠もしておりませんし、いつでも、誰でも訪ねて来ても良いようになっています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「認知症高齢者の為の環境支援指針 PEPA3 日本版」を参考に、室内の環境整備には配慮させて頂いております。例えば、玄関やホール、あるいは廊下の天井やホールの天井には、季節ごとの花や飾りつけ等の工夫をさせて頂いたり、夏場には風鈴を飾り、その音色を楽しんだりしております。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには大テーブルの他にソファがあり、何処でも自由に座れる様に工夫させて頂いております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、必ず皆様にお伝えしているのが「新しい物は購入せず、今まで使用している物をご持参下さい。また、カレンダーや時計、ポスターなどありましたら、遠慮なくお持ち下さい。」と。そして、ここでの生活が始まれば、入居者様とご相談しながら、できるだけご本人様の意向を尊重し、居室空間の整備に当たらせて頂いております。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	必要に応じ窓を開け、風通しを良くしたり、寒気を行っております。また臭い等についても、ファブリーズ等を活用しながら、常に快適な空間である様心掛けております。これは室温についても同様で、常に温度にも気を配っております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	既存のハード面は勿論ですが、そこで生活する一人一人の入居者様の状態に応じ、ベッドを医療用の物に交換したり、浴室の椅子を特注で作ったりと、常にその時々状態に応じ対応させて頂いております。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	これに関しても日頃から常に観察し、一人一人の持っている障害等を正しく理解し、その方が混乱や失敗をしない為には、私達はどう動けばいいのかを常に考えながら、支援させて頂いております。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由に外へ出られる様、施設は一切しておりません。そして庭に出て外気欲を楽しんだり、畑で野菜を収穫したりと、工夫させて頂いております。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私達のホームは「配慮するケア」と言っても過言ではありません。ここでの生活は短いものです。ここを出れば病院か施設行き。人として、その人らしく生活できるのはおそらくここが最後。人生の最終ステージと言っても過言ではないでしょう。だからこそ、せめてここでの生活は「ゆっくり、のんびり、穏やかに」生活して頂きたい。職員一同がその想いで支援し当たらせて頂いております。日々の生活は「配慮するケア」と言っても良い位、私達職員は、自分達が発する言葉や態度にも気を配り、入居されていらっしゃる皆様が穏やかに過ごされる様、努力致しております。いつもいつも、入居者様やそのご家族様のことを考え、時が過ぎていきます。